

# 7 農村振興等の概要

## 農業農村整備の概要

現在、農業・農村は次のような課題に直面しています。  
 ○農家戸数の減少や農業従事者の高齢化や後継者不足。  
 ○輸入食品の汚染や産地偽装など「食」の安全・安心を脅かす事案の発生。  
 ○近年の異常気象に伴う冷温害や高温障害などの気象災害の発生。  
 ○農業水利施設や農地の経年変化などによる機能低下。  
 これらの課題を解決するため、次の3つの整備方針に重点化した農業農村整備に取り組んでいます。

### ■1. いのちの源「食」の生産をささえる

具体的な取組・・・スマート農業技術の導入や農作業の一層の効率化に向けた農地の大区画化、大雨などから農作物の被害を防止・軽減する排水施設や暗渠排水などの整備、農業用水の安定供給に向けた用水施設の整備、飼料自給率の向上に資する草地整備、ストックマネジメント手法を活用した農地や農業水利施設等の計画的な保全管理

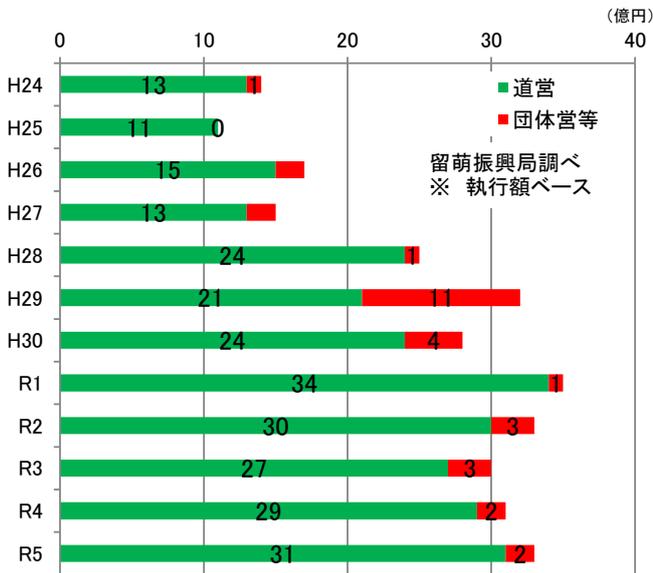
### ■2. 多様な担い手と地域をささえる

具体的な取組・・・中心的な担い手への農地の利用集積促進に向けた整備、優良農地の確保と耕作放棄地の発生抑制に向けた整備、農業機械の安全な走行や効率的な輸送などに向けた農道の整備、自然災害による被害を防止・軽減する農業水利施設等の整備、自然災害マップの整備など減災対策の検討

### ■3. 豊かな農村環境をささえる

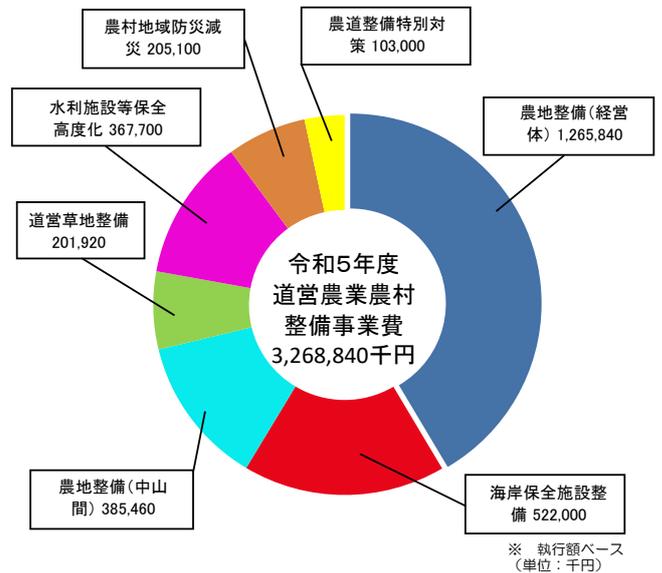
具体的な取組・・・生態系に配慮した魚道や排水路等の整備、バイオマスや小水力等の再生可能エネルギーの有効活用

農業農村整備事業予算の推移(留萌)



(資料：留萌振興局農村振興課調べ)

道営農業農村整備事業予算



(資料：留萌振興局農村振興課調べ)



暗渠排水工事



草地整備工事



海岸保全工事

## 中山間地域等直接支払制度の概要

農業・農村は、単に食料を供給するだけでなく、農業生産活動等を通じて国土の保全、水資源のかん養、良好な景観の形成、国民に保健休養の場を提供するなどの多くの多面的機能を有しています。しかし、中山間地域等は、傾斜地が多いことなどから農業生産性が低く、高齢化が進行し、耕作放棄地の増加等による多面的機能の低下が懸念されています。

本制度は、中山間地域等において、農業生産の維持を通じ、多面的機能を確保する観点から、平地地域との生産条件の格差の8割を直接支払うものとして、平成12年度から実施されています。

管内では、平成12年度から小平町・苫前町・羽幌町・初山別村・天塩町、平成13年度からは留萌市・増毛町及び遠別町で開始されており、平成22年度から全8市町村で実施されています。

管内における令和4年度の参加協定数は31件で、交付金額は約4億1千万円となっており、全道に占める割合は約5.5%となっています。

令和4年度の主な実施状況

区分	集落協定数（件）	協定参加者（人）	交付金交付面積（ha）			交付金額（千円）
			田	畑	草地	
留萌振興局	31	1,063	3,165	22	8,064	410,232
全道	316	15,237	36,416	4,952	227,450	7,504,827

\*集落協定は、対象農用地において、農業生産活動等を行う複数の農業者等が締結する協定です。

## 多面的機能支払交付金の概要

農地・農業用水等の資源は、食料の安定供給や国土保全等の多面的機能を有していますが、農村地域の過疎化、高齢化等の進行に伴う集落機能の低下により、その適切な保全管理が困難となってきたことから、生産者だけでなく地域住民などの多様な主体が参画した農地や農業用水等の資源の良好な保全と質的向上を図るための取組などを推進する必要があります。

このため、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対し支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進します。また、これにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しします。

留萌管内では、留萌市・増毛町・小平町・苫前町・羽幌町・初山別村・遠別町・天塩町の8市町村の地域において、活動組織による水路の土砂上げや景観形成のための植栽などの共同活動を実施しています。

令和5年度多面的機能支払交付金の採択地区一覧（留萌振興局管内）

市町村	活動組織
留萌市 (5地区)	藤山地区農村資源保全隊、幌糠地区農業資源保全隊、東幌第二地区農業資源保全隊、樽真布地区農業資源保全隊、峠下地区農業資源保全隊
増毛町 (5地区)	暑寒沢地区資源保全協議会、信砂地区資源保全協議会、朱文別地区資源保全協議会、湯ノ沢地区資源保全協議会、別対地区資源保全協議会
小平町 (12地区)	第一地区資源保全会、本郷地区資源保全会、沖内地区資源保全会、寧楽地区資源保全会、住吉地区資源保全会、達布地区資源保全会、大楸地区資源保全会、平和地区保全会、桑園地区資源保全会、折真布地区資源保全会、滝下地区資源保全会、田代地区資源保全会
苫前町 (9地区)	九重地区資源保全隊、三溪地区資源保全隊、岩見地域環境保全隊、小川地区資源保全隊、古丹別地区資源保全隊、四区保全向上会、川南地区環境保全対策組合、旭・昭和地区資源保全隊、東川地区資源保全隊
羽幌町 (4地区)	中央地区資源保全隊、寿・中央地区資源保全隊、朝日地区資源保全隊、築別地区資源保全隊
初山別村 (3地区)	明里保全隊、千代田保全隊、有明栄保全隊
遠別町 (1地区)	遠別地区資源保全会広域協定
天塩町 (1地区)	天塩地域資源保全会広域協定

# ふれあいファーム

「ふれあいファーム」とは、農業・農村に対する道民の理解を深めるために、都市で生活する方などに農村の暮らしや文化、食べ物を作る農業の大切さにふれる機会と感動を提供し、農業・農村についてのPRや啓発活動に取り組んでいる農場です。

管内では1町1村で16件の農場が登録されており、さまざまな果物の摘み取りなどができます。

増毛町 ふれあいファーム位置図



デジタルマップURL

<https://goo.gl/maps/t4cshAeuYpVkBemm9>

市町村	No	名称 代表者	内容							電話番号 FAX番号	所在地	
			果物摘み取り体験、直売 (はさみ印の果物は摘み取り可能)									
			いちじく	さくらんぼ	プラム	桃	ブルーベリー	ぶどう	梨			りんご
増毛町	1	仙北昌洋果樹園 仙北 昌洋									0164-53-1400 同上	署寒沢299
	2	秋香園 渋谷 忠宏									0164-53-2117 0164-53-3117	署寒沢236
	3	後藤果樹園 後藤 強志									0164-53-3177 同上	署寒沢217-2
	4	仙北要果樹園 仙北 要									0164-53-1440 同上	署寒沢417
	5	千果園 仙北 剛久									0164-53-1469 0164-53-2469	署寒沢189
	6	(株)ヤマゼン仙北果樹園 仙北 清孝									0164-53-1773 0164-53-1722	署寒沢141-3
	7	ハバヤの里富野果樹園 富野 嘉隆									0164-53-2484 同上	署寒沢359-3
	8	阪口果樹園 阪口 裕二郎									0164-53-1844 同上	署寒沢305-11
	9	菊地果樹園 菊地 雅光									0164-53-1466 同上	署寒沢193
	10	山口果樹園 山口 亮									0164-53-1719 同上	署寒沢448-5
	11	(同)マルゼン佐藤果樹園 佐藤 豪									0164-53-1508 0164-53-1559	署寒沢256
	12	池田果樹園 池田 栄									0164-53-2467 同上	署寒沢133-2
	13	高橋りんご園 高橋 吉弥									0164-53-1754 同上	南富中町8丁目88
	14	佐藤健一果樹園 佐藤 健一									0164-53-3202 0164-53-3330	署寒沢100-8



## 北のクリーン農産物表示制度 (YES! Clean)

北のクリーン農産物表示制度 (YES! Clean) とは、これまでも北海道全体で取り組んできた「クリーン農業」を土台としながら、さらに農薬や化学肥料の投入量を削減する「クリーン農業技術」を導入し生産された、よりクリーンな農産物の栽培方法などを分かり易く表示することにより、道産農産物の優れた点をアピールするものです。

管内では、令和6年1月現在、作物別に12団体が登録されています。



北海道安心ラベル

### 留萌管内YES!clean登録集団一覧

作物名	市町村名	登録集団名	作型(肥料)	作型(農薬)	登録年度
水稲(うるち)	苫前町	とままえ水稲推進部会	中間地帯 低地土(乾)	うるち(移植)	H19
水稲(うるち)	留萌市	るもいクリーン農業グループ	中間地帯 低地土(乾)	うるち(移植)	H29
大豆	苫前町	とままえ畑作部会(大豆部門)	露地	露地	H19
小豆	苫前町	とままえ畑作部会(小豆部門)	露地	露地	H19
ばれいしょ	苫前町	とままえ特定野菜生産部会(ばれいしょ部門)	露地	露地・普通栽培	H19
ミニトマト	小平町 苫前町	留萌管内広域ミニトマト生産者協議会	ハウス	ハウス長期どり 夏秋どり	H16
かぼちゃ	苫前町	かぼちゃ特定野菜生産部会(南瓜部門)	露地	露地	H19
	苫前町	かぼちゃ特定野菜生産部会(南瓜部門)	露地	露地・長期どり	H19
スイートコーン	苫前町	とままえ特定野菜生産部会 (スイートコーン部門)	露地	露地8・9月どり	H19
	苫前町	とままえ特定野菜生産部会 (スイートコーン部門)	ハウス	半促成・トンネル 露地7月どり	H19
さやいんげん	苫前町	とままえ特定野菜生産部会 (さやいんげん部門)	ハウス	露地・抑制	H31
メロン	苫前町	とままえ特定野菜生産部会(メロン部門)	ハウス	促成 半促成(7月どり)	H15
	苫前町	とままえ特定野菜生産部会(メロン部門)	露地	トンネル(8月どり)	H19
	苫前町	とままえ特定野菜生産部会(メロン部門)	ハウス	抑制 (9・10月どり)	H19
ピーマン	留萌市	るもい農協留萌地区野菜園芸協議会ピーマン研究会	ハウス	ハウス長期どり	H18
りんご	増毛町	増毛町果樹協会	露地	露地・中生種	H15
	増毛町	増毛町果樹協会	露地	露地・晩生種	H15
なし	増毛町	増毛町果樹協会	露地	露地・西洋種	H15
おうとう	増毛町	増毛町果樹協会	露地	露地	H20

## 北海道らしい食づくり名人

北海道では、地域で、その土地ならではの農産物を作っている方、地域が誇るこだわりの加工品や郷土料理を作っている方など、地域の風土や食文化などを活かした北海道らしい食づくりを行っている方々を「北海道らしい食づくり名人」として登録し、名人の持つ「技」などの情報を公開しており、令和6年1月現在、留萌管内では7名が登録されています。

食づくり名人一覧

市町村	名人	名人の一品
留萌市	新しい留萌の食文化を創造する料理名人 <b>佐藤 信子</b>	ホタテのコキール
	るもいの旬の素材を生かした料理作り名人 <b>小林 裕二</b>	おしどりの寿司
	伝統のにしん漬けからカットフルーツまで！加工と食育の名人 <b>田中 美智子</b>	にしん漬け
増毛町	「お客様に出来たてをお届けしたい」 留萌管内の食材を使用した出来たてフレッシュな燻製づくり名人 <b>管野 裕介</b>	ホタテ燻製
	地場産原料を使って消費者に喜ばれる食づくりをする水産加工名人 <b>浜本 義夫</b>	真だこやわらか煮
	クリーンな地場産フルーツを使ったジュース作り名人 増毛町農産加工組合 <b>仙北 清孝</b>	果物ジュース
天塩町	自家製野菜で作るキムチ名人 <b>和田 洋子</b>	てしおキムチ

## エコファーマー

「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減に一体的に取り組む計画を立て、都道府県知事の認定を受けた農業者を通称して「エコファーマー」と言います。

管内では、令和6年1月現在、30件の農業者が認定を受けています。

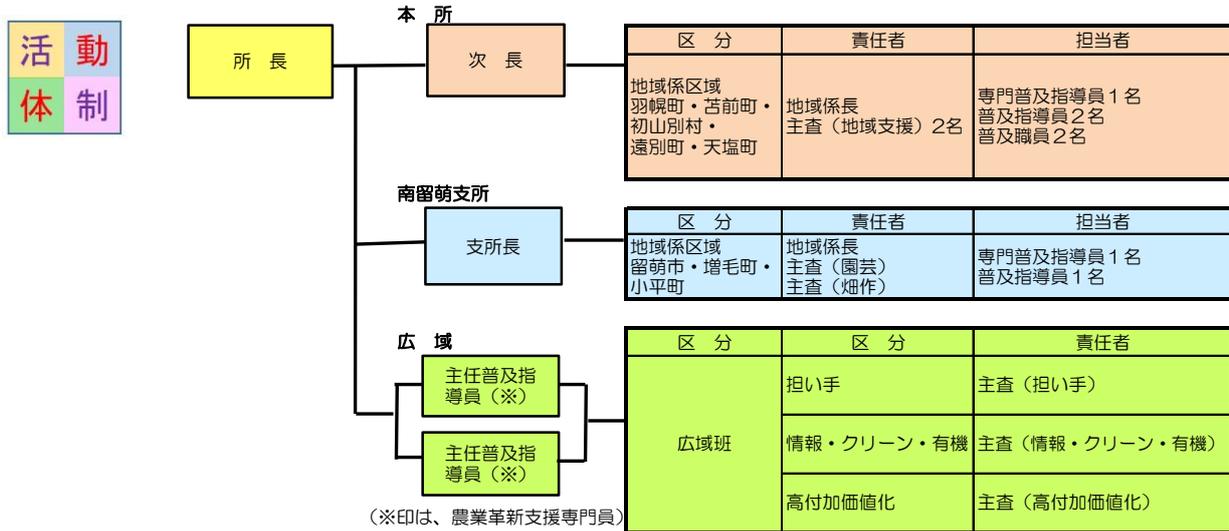
エコファーマーの認定状況		
(単位：件)		
市町村	認定者数	取組農産物別
小平町	4	野菜 8
苫前町	24	稲作 2、畑作物 17、野菜 5
羽幌町	2	稲作 2
計	30	

# 8 農業関係機関

## 留萌農業改良普及センター

留萌農業改良普及センターは、本所（羽幌町）と支所（南留萌支所：留萌市）が設置され、限られた人員で地域農業の課題を解決するために、波及を前提とした課題と対象の重点化を図っています。

管内2箇所の重点地区を拠点に、①ゆとりある豊かな地域農業の確立、②次代を担う水稻を基幹とした地域農業の確立の重点的普及課題の解決に、また、年々、多様化・複雑化する農業に対し、地域関係機関と連携を取りながら、「現場主義」をポリシーに地域に密着した活動を実践しています。平成24年4月から、より高度に専門的な相談・支援を行う「農業革新支援専門員」を配置しています。



## 留萌家畜保健衛生所

留萌家畜保健衛生所は、幌延町に置かれ、留萌振興局管内を管轄しています。消費者に安全・安心で高品質な畜産物を提供し、畜産経営における生産性向上を図るため、的確かつ効率的に次の家畜衛生対策を推進しています。

- 家畜伝染病予防法に基づく業務**  
牛コヨーネ病、BSE、牛結核病、みつばちの腐そ病の検査を実施するとともに輸入・移入家畜の検査や公共牧場などの集団飼育施設での調査・検査等により伝染性疾患の発生防疫・まん延防止を図っています。  
また、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザ等の防疫演習を「特定家畜伝染病防疫指針」に基づいて実施し、万一の発生に備えているとともに、各農場に対して「飼養衛生管理基準」の遵守について指導を行っています。
- 衛生対策のための指導**  
家畜衛生の総合的な指導（家畜の生産性阻害要因の除去）、安全な畜産物を供給するための啓発、指導（生乳等の抗菌性物質残留防止対策指導）、動物用医薬品等の適正使用指導により畜産経営の生産性向上と安全な畜産物の推進を図っています。
- 不明疾病の診断、原因究明**  
診療獣医師や生産者等からの依頼に基づき、家畜の死亡原因、疾病原因について病性鑑定（細菌、ウイルス、病理検査等）を実施し原因の究明を行うことにより感染症の拡大防止に努めています。

## 9 農業関係団体

### 農業協同組合

管内では、南るもい農業協同組合(留萌市、増毛町、小平町)、苫前町農業協同組合、オロロン農業協同組合(羽幌町、初山別村、遠別町)、天塩町農業協同組合が合併し、令和3年2月1日に「るもい農業協同組合」が発足しました。管内一つの総合農協であり、信用・共済・経済事業などを通じて組合員の経済的かつ社会的地位の向上や地域農業の発展に、農協が果たす役割と期待は一層大きくなっています。

#### るもい農業協同組合

主たる事務所 本所(羽幌町)

従たる事務所

増毛支所(増毛町)、留萌支所(留萌市)、小平支所(小平町)、苫前支所(苫前町)、初山別支所(初山別村)、遠別支所(遠別町)、天塩支所(天塩町)

### 農業共済組合

農業共済組合は、平成29年(2017年)に全道5組合体制(みなみ北海道・北海道中央・十勝・北海道ひがし・オホーツク)へ移行しましたが、更なる組合運営の効率化を目指して合併に向けた協議を重ね、令和4年(2022年)4月1日付けで、新たに道内一円を区域とする「北海道農業共済組合」が設立されました。

組合名	支所数	支所数
北海道農業共済組合 (呼称：NOSA I 北海道)	29	71

(資料：北海道農業共済組合HP)

### 土地改良区

土地改良区は、土地改良法に基づき設立された団体で、農業者により組織されています。

管内には4つの土地改良区があり、ダム・農業用排水路等の土地改良施設の維持管理、農業用水の利用調整、農業基盤の整備・推進などを通じて、地域農業の振興に重要な役割を担っています。

### 農業委員会

農業委員会は、農業委員会などに関する法律に基づき、市町村に設置されている行政機関(行政委員会)で農地法等の法令に基づき、農地の売買や賃借、転用等に関する業務や農業者年金等の事務を行っています。

# 10 TOPICS (2023の取組)

## ■ 南るもいエリアにおけるスマート農業勉強会を開催しました！

留萌地域農業技術支援会議（上川農業試験場、同試験場技術普及室、普及センター、留萌振興局で構成）は、留萌市との共催で、「るもい」に適したスマート農業を推進するため、「南るもいエリアにおけるスマート農業勉強会」を令和5年8月24日に開催しました。

当日は、農業者や市町村、関係団体など計54名が参加し、スマート農業機械の導入に活用可能な補助金等の紹介や(株)北海道クボタによるロボット田植え機の実演等を行いました。

事後アンケートでは、「理解が深まった」「機械の共同利用を進めていく必要がある」「機械導入が進んでいる市町村の取組を知りたい」などの前向きな意見が寄せられたため、今後も要望に応じた取組を地域と共に進めてまいります。



## ■ 東京ソラマチにて「北海道のひだり上るもいフェア」を開催しました！

留萌振興局では、令和5～7年度にかけて、振興局独自事業を活用して管内8市町村・JAとの協働により、首都圏での「るもいフェア」開催を通じて地域や農畜産物などをPRすることとしており、令和5年度は9月9日、10日の2日間に渡って東京ソラマチにて「北海道のひだり上るもいフェア」を市町村、JA、事業者等と共に開催しました。

当日は、JA・事業者によるメロンやおびら和牛等の特産品の販売や、市町村・振興局による特産品の試食・試飲等でのPR、ブース設置による観光・アウトドアのPRを行いました。

2日間の開催期間中に、5,000人超の来場があり、「るもい地域を初めて知った」「メロンが美味しかった」「接客が丁寧で良かった」「ECで購入したい」などの感想があり、アンケートでも「満足した」「やや満足した」を合わせて95%以上もの評価を得ることができたため、令和6年度以降も関係団体と共に、地域や農畜産物のPRを進めてまいります。



## ■ 水稲栽培の省力化のためドローンによる湛水直播栽培実証を行いました！

農家戸数の減少や高齢化・労働力不足の進行が課題となっていることから、水田機能の維持と生産力の確保を図るため、増毛町の農業者や留萌農業改良普及センター南留萌支所、関係機関と連携し、省力化を目的としてドローンを活用した水稲湛水直播の実証を行いました。実証内容は、ドローンは種による作業性・生育状況・収量品質を調査するというものです。

5月16日、ドローンによるは種作業を行い、風が強い気象条件ではありましたが、無人ヘリと同等の時間で作業を行うことができました。生育状況調査では、目標である150本/m<sup>2</sup>以上の苗立本数を確保することができました。

また、倒伏も一部見られましたが、収量調査の結果、収量・品質は前年を上回る結果となりました。



## ■ 知名度アップと需要拡大のため「るもいフラワーデイズ」を実施しました！

留萌管内で栽培される「るもいの花」のうち、大輪仕立てのトルコギキョウ、スターチス、アスターなどは、道外にも出荷されています。

8月7日の「北海道花の日」に向けては、道民に道産花きと産地のPRを行うことを目的として、庁舎内と管内道の駅2箇所に、「るもいの花」をはじめとした道産花きのフラワーアレンジメントを展示する「北海道花の日キャンペーン in るもい」を実施しました。展示期間中は、多くの方に「るもいの花」を楽しんでいただくことができました。

また、9月14日～15日にかけて地元で生産されている花きに興味を持ってもらい、購入を通じて、花のある日常生活のきっかけづくりをする期間として「るもいフラワーデイズ」を実施しました。



## ■ 留萌管内青年農業者会議「ファーマーズトーク in RUMOI」を開催しました！

留萌管内4 Hクラブ連絡協議会、留萌振興局の共催により、青年農業者の農業技術や知識、農村活性化等の発表や情報交換を行い、相互の交流を深めることを目的とした留萌管内青年農業者会議「ファーマーズトーク in RUMOI」を令和5年11月21日に、留萌管内青年農業者交流会を11月22日に開催し、管内の青年農業者、遠別農業高校生や関係団体等が出席しました。

21日は、青年農業者や高校生が日頃の活動で身につけた栽培技術や食品加工等に関する取組が発表され、助言者（農業士）からのアドバイスや参加者との質疑応答など活発な意見交換が行われました。22日は、農家アーティストとしてアパレルブランドの経営を行う栗山町の荻野隼一氏から、一年間を通じた活動や農家としての今後の展望等について講演があったほか、北海道アグリネットワーク役員によるディスカッション、農業者と高校生によるグループワークが行われ、相互交流の貴重な機会となりました。

